

\*\*\*\*\*



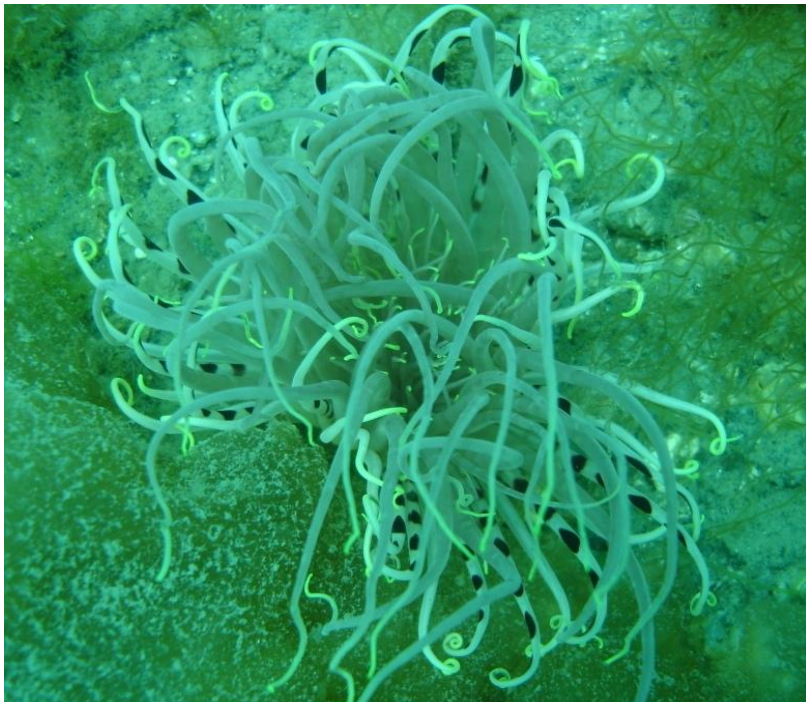
Association for Protection of Marine Communities (AMCo)

Homepage : <http://www7b.biglobe.ne.jp/~hiromuk/index.html>

\*\*\*\*\*

「今日の海の生きもの」 **マダラハナギンチャク** *Cerianthus punctatus*

腔腸動物ハナギンチャク（花巾着）類。イソギンチャクと形態は似るが、イソギンチャクが足盤を持ち、岩や石に付着して生活するのに対して、ハナギンチャクは砂の中に筒状の巣穴を作り、その中で付着せずに生活する。もっとも普通に見られるムラサキハナギンチャクは、紫色から薄いベージュ色まで色彩変化が大きいですが、本種は触手に黒い斑点をもつ。ムラサキハナギンチャクが砂から泥の浅い海底に生活するのに比べ、本種は岩の間の砂地のようなところに棲んでいることが多い。日本各地の内湾や沿岸に分布するが、温暖な地方を起源とするようで、



親潮系の海には見られない。長い触手を体の先端から海中に広げ、プランクトンや懸濁している有機物を食べる。棲管にホウキムシを共生させる。浮遊幼生は特徴的な形態をしており、アラクナクチス、オバクチスなどと呼ばれる発生段階を経る。  
(山口県上関町長島にて 向井 宏撮影)

\*\*\*\*\*

目次 「今月の海の生きもの」 マダラハナギンチャク

1. 海の生き物とその生息環境に関するニュース
2. 海の生き物を守る会活動予定
3. 海の生き物を守る会活動報告
4. 海の生き物に関する運動・行事・他の団体の情報
5. 事務局便り
6. 編集後記

\*\*\*\*\*

## 1. 海の生き物とその生息環境に関するニュース

### 【全国】

#### ●「水俣条約」採択 水俣市へ招致

日本の水俣病を教訓として「水銀規制条約」の締結を目指す国連環境計画（UNEP）会議が千葉市で開かれた。約130カ国から600人以上が参加し、水銀による汚染と発病を無くすために規制することを討議した。2013年に正式に条約が採択・署名されることになるが、水俣市長は会議で挨拶し、条約を水俣条約と呼ぶことに賛成し、条約採択の会議を水俣市に招致したいと話した。会議は、映画「水俣病 記憶と祈り」を上映した後、水俣病患者の語り部である金子スミ子さん(79)の講話を聞いて、実質的討議に入った。この時点で国連が水銀規制に動いたのは、新興国において再び水銀汚染が広がりを見せつつあることから、健康被害の拡大が懸念されるようになったためだ。水俣病を世界から撲滅できていないのは、日本でまだ水俣病が解決していないことと関係がある。

### 【関東】

#### ●海とサカナのフォーラムで「日本の魚を守る責任」児童ら語る

海と魚の学習をして食文化や環境、産業などを考える東京都の市民団体「ウーマンズフォーラム魚」が主催した「こども・海とサカナのフォーラム」が渋谷区の東京ウィメンズプラザで開かれた。「ウーマンズフォーラム魚」の子ども向けプロジェクト「海彦クラブ」の一環で都内の小学生たちが伊豆大島で定置網漁の見学やクサヤ加工工場などを視察して報告したもの。報告の中で、こどもたちは「海をきれいにしていきたい」とか「日本の魚を守る責任がある」などの感想を語っていた。どうやって海をきれいにするか、どうやって海の魚を守るかが、これからの彼らに問われるだろう。

## ●久保田信さんベニクラゲの生活を講演 京大連続講座

東京品川にある京都大学東京オフィスで、久保田信京大准教授（会員）によるベニクラゲについての講演が行われた。これは京都大学が「生き物の多様な世界」というタイトルで行う連続講座の一環として行われたもの。久保田さんは「人類の夢、不老不死のベニクラゲの神秘」と題して、研究しているベニクラゲが環境の悪化や老化に対応して一度体を小さな肉の塊に退化させ、その後あらためて若く元気の良い個体になって復活するというベニクラゲの生活史を、久保田さん自身が作詞作曲した歌「ベニクラゲ音頭」を歌ったりしながら紹介した。受講生からは笑いが起こり、講演後の感想も子どもから大人までおおむね好評だったようだ。大学院時代から35年間にわたって一貫してクラゲを研究してきた久保田さん。最近は海の生き物について歌を作り歌うことにも生き甲斐を見いだしているようだ。すでにカラオケにも彼の歌が数曲登録されているという。

久保田さんによると、ベニクラゲは日本沿海に北から南まで見つかる体長3mmほどの小型のクラゲで、日本のベニクラゲは遺伝子構造から三つのグループに分けられるという。不老不死ではあるが、死なないわけではなく、魚など外敵に食われれば死ぬ。受講者からは「増えすぎてしまうことはないか」というもっともな質問も寄せられていた。

同連続講座では、2月12日に白山義久教授の「海洋生物の生物多様性」の講演が予定されている。

## 【北陸】

### ●海藻からオリゴ糖へ 分解菌を確認

富山大学大学院理工学研究部教授らが、海藻を分解しオリゴ糖を作る細菌株「Myt-1」を見つけ、3月の水環境学会に発表すると報道された。実験によってワカメ、マクサ、アオサの海藻を分解することが確かめられた。分解して10種類程度のオリゴ糖が作られる。研究者は「海の環境改善と海藻の再利用のための実用化をめざす」と語っているが、海の環境改善とは、浜に打ち上げられたアオサなどの海藻を工場などで分解することを意味しているようで、海洋環境の根本的な改善につながるわけではない。

### ●ウミガメの子ども漂着相次ぐ 福井県の海岸

昨年末から今年1月にかけて、福井県福井市やあわら市の海岸にウミガメの幼体の漂着が相次いでいる。海岸に流れ着いたのはアカウミガメやタイマイなどの8個体で、いずれも幼体。生きた状態で見つかった個体もある。福井県の海岸には毎年ウミガメが漂着しているが、これほど多くのウミガメが短期間に漂着したのは珍しいという。また、タイマイのように熱帯に棲むウミガメが漂着するのも珍しい。原因として海水温や海流の影響が考えられている。昨年の猛暑の影響で日本海の水温も例年より高水温で推移していたのが、11

月以降の急激な冷え込みで水温が 2℃以上も下がったため、ウミガメが衰弱したと考えられている。

## 【近畿】

### ●サンゴが北上 和歌山県で分布拡大

和歌山県では、南部の田辺市やみなべ町の海域でサンゴ群集の分布が拡大していると発表した。近年の海水温上昇が原因と考えられる。サンゴのみならず、サンゴを食害するオニヒトデなども北上している。和歌山県南部の海水温は、過去 40 年間で 1℃以上上昇している。県は串本海中公園センターに調査を委託した結果、1989 年にクシハダミドリイシの北限がすさみ町口和深だったものが、今回の調査では白浜町や田辺市、みなべ町などでも確認されるなど、さまざまな種で北上が確認された。海水温の上昇が続けばさらなる北上も予想されるという。串本町安指から田子、田の崎南東海岸、白浜町四双島、田辺市沖島などでは、大型のテーブルサンゴを中心として非常に高密度のサンゴ群集が観察された。オニヒトデも串本町から田辺市天神崎までほぼ全域で確認されるなど、サンゴのみならず、サンゴ群集全体の北上傾向がみられると県自然環境室では話している。

### ●隠岐島沖で巨大なアカムツを漁獲

兵庫県新温泉町芦屋にある浜坂漁港で、巨大なアカムツ（地方名はノドグロ）が水揚げされて話題になっている。問題のアカムツは島根県隠岐島沖の水深 150m の地点で底曳き網によって捕獲されたもので、体長は 50cm を超える大物が 3 匹も。漁業者もこんな大きなノドグロは初めて見たと話している。競りでは 3 匹 26,000 円で買われた。

## 【中四国】

### ●原発に抗議 10 代の若者 5 人 ハンガーストライキ

山口県上関町長島の田ノ浦に中国電力が原発を建設しようとしていることに抗議して、10 代の若者たちが「上関原発に抗議する 10 代の会」を結成し、そのうち 5 名が 21 日から 10 日間のハンガーストライキを県庁舎前で行った。県の職員が「庁内での示威行為は禁止されている」として退去を求めたが、若者たちは応じず、「中電の海面埋め立て許可を取り消して欲しい」「(原発の放射能処理の) 問題は次世代に先送りされる。僕らにも抗議する権利がある」などと訴えた。10 代の人約 800 人の署名を上関町に提出する予定という。彼らは 10 日間の断食を決行し、成功させた。



中国電力は、今年になってすでに十数回にわたって台船を出航させて工事強行を図るようなそぶりを見せたり、ブイの交換だけだから作業をやらせろと威嚇したりしているが、祝島の漁業者が漁船で台船を囲って抗議すると、1時間くらいで引き上げることを繰り返している。どうやら中国電力は工事を強行するよりも、毎日台船を出港させて祝島の漁業を妨害することを主目的にしているようである。持久戦で祝島の漁業者を日干しにする兵糧攻めを企んでいるようだ。一方で、全国から祝島への闘争支援は拡大している。

### ●小島が消滅の危機 ナナツバコツブムシが島を食い尽くす？

広島県東広島市沖 500m にある無人島のホボロ島で、珍しい現象が起こっている。甲殻類等脚目に属するナナツバコツブムシという小型の動物が、数年前から大増殖をおこなっている。大増殖の原因ははっきりしないが、ナナツバコツブムシは岩に穴を開けて生活するため、岩が侵食されやすくなり、島の大きさがどんどん小さくなっている。1928年の調査では、島の長さは120m、最高点の海拔は22m あったことが記録されている。ところが、現在ではホボロ島は高さ6mの岩の引っ張りに過ぎず、満潮時にはほとんど姿を消してしまうほど浸食が進んでしまった。専門家によると、このように生物の作用によって浸食が進む現象を「生物浸食」というが、島が無くなるほどの生物浸食が観察されるのはほとんど例がないそうだ。

## 【九州】

### ●北九州空港東側に しゅんせつ土砂処分

国交省九州地方整備局北九州港湾・空港整備事務所は、関門航路の浚渫した土砂の処分場をどこへ作るかについて検討した結果、北九州空港の東側に土砂を処分し、空港島拡張を行う計画案を作成し、専門家による技術専門委員会に提示した。整備事務所では、6つの案を検討した結果、近くの曾根干潟への影響と整備費を検討して東側を埋め立てる案が最適とした。委員の中から「埋立て失われる海の価値を評価すべき」という意見や、「処分場の面積を減らすために高さを増やすなど考慮すべき」という指摘も出た。整備事務所では、委員の意見を踏まえた空港島拡張案を周辺自治体に示して計画を実行する予定だ。専門技術委員会はいくまで専門家の意見も聞きましたというだけで、委員の意見を尊重する義務はない。委員の意見を踏まえて拡張案を決めると言う意味は、海の埋め立ては既定路線であるということを示している。いつになったら事業そのものを行うべきかどうかという意見の聞き方ができる役所になることができるのだろう。海の埋め立てはもう止めるべきだ。

## ●漁業者らと国が具体的開門協議へ

長崎県諫早湾の国営干拓事業が有明海の環境に悪影響を及ぼし、多くの海の生き物の減少と絶滅をもたらしているが、佐賀県の漁業者の潮受け堤防を長期に開門して海の環境を取り戻すよう訴えた裁判で、地裁・高裁がそれぞれ長期（5年間）の開門試験を命じたことから、菅内閣は上告を断念して高裁の決定を受け入れた。その後、開門をめぐるさまざまな動きが起こっている。

### ◎諫早湾干拓長崎訴訟 国、判決延期・和解協議申し入れ

諫早干拓事業については、長崎県の漁業者も別に開門を求めて訴訟を起こしているが、国は佐賀県の裁判で上告しないことを決めたことから、長崎県の裁判についても、佐賀県の判決に応じる形で和解協議を行うため、3月29日に予定されている判決を延期するよう長崎地裁に上申書を提出した。原告側も上告断念した以上和解協議にはいることは当然として受け入れる。しかし、鹿野農相は「判決の延期を求めただけで和解に応じるとは一言も書いていない」と主張している。

### ◎佐賀県訴訟 国と原告が協議

政府が上告を断念した佐賀県開門要求訴訟で、国と原告の訴訟弁論準備手続きの中でおこなわれたもので、国は「開門の時期や方法について関係者と協議を重ねたい」と述べた。原告側は「具体的な開門協議の扉が開いた」と歓迎、判決延期には反対したものの、具体的協議の場を設けるように国に要求した。

### ◎諫干開門影響 佐賀県が独自調査・検証

佐賀県はNPO有明海再生機構や佐賀大学とともに、諫早干拓事業の調整池開門調査について科学的な調査方法の検討を始めることになった。開聞によって潮の流れがどのように変化するかなどのシミュレーションモデルを完成させ、それに基づいて環境アセスメントの結果を検証し、有明海を再生させるためにもっとも効果的な開聞調査の方法と内容を国に提言する予定。佐賀県は事業費として2011年度予算に1130万円を盛り込む。農水相が現在とりまとめている環境アセスメントの中間報告が5月にまとまる予定になっているが、佐賀県はそれと県独自の検討結果を比較し、知事が国に意見をだす。国の環境アセスメントに県が不信の意を表すことになる。有明海再生機構は国の環境アセスへの「不信感は消えていない」と、県独自の取り組みを国の施策に反映させたいとしている。

## ●西之表港沖防波堤 倒壊が続く

鹿児島県西之表市（種子島）の西之表港では、昨年劣化した防波堤を補強したが、その部分はすぐに倒壊してしまった。さらにその後、年末年始の荒天で新たに60mにわたって防波堤が倒壊。コンクリート約6000トンが海に落ち込んでしまった。昨年の改修は、「台風直撃でも耐えうる設計基準」で行ったものだが、台風も来ないうちに改修部分がすべて崩落したことになる。原因は不明だが、手抜き工事も疑われている。でも堅牢な防波堤の建設が本当に必要なかどうか、根本的なところから検証をしてみてもどうだろうか。

## 【沖縄】

### ●名護市への圧力を強める管内閣

沖縄県名護市辺野古へ米軍基地を新設する方向に転換した菅民主党政府は、前原外相をはじめ次々と閣僚を沖縄に送り込んで辺野古基地の建設に同意するよう説得にかかっている。また、防衛省は辺野古への基地受け入れを拒んでいる名護市への交付金の配分をしないなど、自民党時代と変わらない圧力を加え始めた。これまで沖縄を訪れた関係閣僚はすべて名護市長と会わないまま沖縄を離れており、名護市相手にせずという姿勢を明確にし始めた。また、辺野古の基地の形態も、滑走路のV字案からI字案、さらに沖合移設案と徐々に過去の自民党案に戻りつつある。最終的に辺野古の海を埋め立ててしまうことになりかねない。

### ●辺野古浜に壁建設 海兵隊

名護市辺野古浜で既存の米軍基地（キャンプ・シュワブ）と一般の浜との境界線には、これまで鉄条網（有刺鉄線）が置かれており、その鉄条網には多くの平和と基地撤去を祈るリボンが結ばれていた。米軍はここに新たな構造物を建設し、境界線を通して中が見えないような壁を作る作業に入った。辺野古のキャンプ内の砂浜付近には、名護市教育委員会が埋蔵文化財の発掘調査を行っている思原（ウムイバル）遺跡があり、工事の影響が心配されている。市教委は防衛局に照会したが、防衛局では米軍独自の工事なので詳細は分からないと回答した。

### ●高潮対策という名の自然破壊

沖縄県の海岸が各地で人工化される現状を考える環境学習会「貝世界から沖縄の渚のいま～崩壊する多様性」が名護市大南公民館で開かれた。主催は、北限のジュゴン調査チーム・ザン。講師は水中写真家の有光智彦さん、チーム・ザンの吉元宏樹さん、貝の渚を歩く会

の名和純さんの3名で、名護市などの浜辺の現状を紹介した。とくに、東江の高潮対策事業によって貴重な自然海岸が失われていくようすを撮影した有光さんは、「ハマサンゴは年に1cm ずつ成長し、その海の環境変化などのデータを刻み込んでいる。名護湾の歴史の証人であるハマサンゴがこのまま失われるのは残念だ」と話した。また、吉元さんは「(過去の埋立から) 再生しつつある海に再び人間の手が加わろうとしている。住民が知らないまま工事が進む現状は、他の地域でも起きている」と警告した。市民有志は沖縄県北部土木事務所にあてて、東江の高潮対策事業を見直すように要望書をまとめて発表した。

沖縄県土木建築部 北部土木事務所 河川海岸班 新里所長殿

2011年1月24日

#### 要望書

名護湾の生き証人である大型ハマサンゴの保全を求めます。

[http://img05.ti-da.net/usr/ari3tsu/P1010071\\_exposure.jpg](http://img05.ti-da.net/usr/ari3tsu/P1010071_exposure.jpg)

貴事業所の管轄である「東江海岸高潮対策」事業〔平成13～22年度〕で明日にでも「チービシ」の海底の砂で埋められる東江護岸内の礁池の真ん中に名護のシンボル銘木「ヒンプンガジュマル」に匹敵する歳月を生き続けている巨大なハマサンゴが名護の海を見守っています。

この長老の頭上には、まるで孫たちのような藻類や小魚たちが戯れて生命が溢れています。彼の足元の砂地にはジュゴンの好む海草も茂って、今は沖縄の渚に少なくなってしまった「生きた星砂 [有孔虫]」もいます。この東江海岸は国定公園内でありながら、豊かなサンゴ礁を58号線の道路建設で埋め立てのために、住民は渚を奪われ、サンゴも破壊され、結果、台風時の高潮被害を理由に埋め立てが進められたのです。痛めつけられ、死んでしまったと思われて・・・誰も見向きもしなかったこの海は、貴事業所の進める「環境保全型」防災事業により新たな装いで「トロピカルビーチ」を演出して、地元で渚を取り戻すと謳われています。

しかし、一見「青い海・白い砂」の人工ビーチはいかにも『南国情緒』溢れて美しいけれど、海の中には生き物の気配がなく、恐ろしいほどの「沈黙の海」です。また、突堤建設で流れが変わってしまい、波打ち際の砂浜は深くえぐれ、子どもたちの事故が心配されます。波と風に流された砂は護岸を越えて、道路や店舗に飛散し、予想外の被害も出ています。加えて多くの人工ビーチには夏場にはハブクラゲが繁殖し、事故も多発しています。

生き物の賑わいのない、危険ばかりの「人工ビーチ」、他方まだ砂の投入されていない護岸の中は多様な生物の宝庫です。若いサンゴたちや藻類と魚類の賑やかな営みも観察され、



一度は損われたサンゴ礁生態系が力強く回復しつつあります。

ハマサンゴは一年に約1センチほどしか成長しないということで、このハマサンゴはおおよそ300年は越えているのではないかとのこと。1998年のサンゴの大白化現象からも生き残り、名護湾の歴史の生き証人を、名護市民は誰も知らないままに喪おうとしています。名護市民にとってはかけがえのない財産を失うことになるのです。

名護の海の長老と出会った私たち名護市民は要望します。どうか、この海をこれ以上痛めつけないで・・・そして、この貴重な歴史の生き証人を保全できるように、再調査し、名護市行政や市民と共に海の長老と語り合い、かつてここにあった「名護湾の豊かな人と海の命の営み」の記憶を呼び起こし、県民の豊かな資源と知識の宝庫を守るために「やんばるの国土を守る北部土木事務所」として力を貸して下さい。

名護の自然を守り、次世代に残したい市民有志

連絡先：北限のジュゴン調査チーム・ザン

Tel/Fax:0980-43-7027 携帯：090-8032-2564

## 2. 海の生き物を守る会活動予定

### ●ジュゴンのスタディ・ツアー参加者募集

海の生き物を守る会では、今年もジュゴンの調査に同行するスタディ・ツアーを行います。参加希望者は早めにお知らせください。詳細は、直接交渉で決めます。

ミンダナオ島マリタでは、過去何回かジュゴン観察ツアーを行ってきました。でも、最近ではジュゴンの出現が少なくなっているようです。そこで、今年はジュゴンの観察に加えて、ジュゴンの餌となる海草の分布状況や川の水質を調べることにしました。そこで、これらの調査の手伝いをしていただける方を募集しています。海草（ウミヒルモ）の生えている場所は、水深3m～20mですので、SCUBA潜水の十分な経験のある方の参加を希望します。もちろん、潜水はできないがジュゴン観察に参加したいという人も歓迎します。調査責任者：向井宏・Emily Antonio（京都大学） 現地対応者：Dr. Ruth Lucero 南太平洋農業海洋技術大学)

日程：2月25日～3月4日

場所：フィリピン国ミンダナオ島南ダバオ州マリタ市ほか

参加費用：1日約5000円以下（宿泊、食事、現地移動費含む。航空賃は各自負担）

注意：ミンダナオ島は、外務省が危険地帯としてなるべく行かないように勧告している場所です。調査場所は安全な場所ですが、安全を完全に保証するものではありません。参加は自己責任でお願いします。きっと楽しい調査旅行ができると思いますが。

問い合わせ先：[hiromuk@mtf.biglobe.ne.jp](mailto:hiromuk@mtf.biglobe.ne.jp) 向井まで。

### ●海の生き物と環境に関するデータベース

海の生き物を守る会では、研究や観測、調査でとられた海の生き物と環境に関するデータベースを作っています。みなさまの手元に研究、調査、観測をした結果のデータが眠っているか、もしくは捨てられようとしているデータがあれば、海の生き物を守る会にお送りください。電子情報でいただけると有り難いのですが、紙の情報でも構いません。卒業研究で調べたデータがそのまま眠っていたり、報告書に書いただけのものなどがあれば、捨ててしまうのは無駄です。いつか役に立つ時があります。過去のデータがなくて、現状がきちんと把握できないことも多いのです。ぜひデータを寄贈して下さい。

## 3. 海の生き物を守る会活動報告

### ●「海の生き物を守る」講演会および写真展を開催

「守りたい 上関・諫早・辺野古の海」と題して、海の生き物を守る会の講演会と写真展を以下の要領で開催しました。



日時：1月30日

(日) 写真展

10:30～16:20

講演会13:30～

16:10

会場：ハートピ

ア京都（京都府

立総合社会福

祉会館）第5会

議室

講演は、長島の

自然を守る会

代表の高島美

登里さんに「瀬戸内海の最後の楽園 長島」、鹿児島大学教授佐藤正典さんに「諫早湾の

干潟復元の意義」、日本自然保護協会の安部真理子さんに「辺野古・大浦湾の海の生き物」と題してお話をいただいた。参加者は約50名でした。日本の海のホットスポットと言われる3ヶ所について、海の生き物の保全の面から熱い話が聞けて、参加者の関心も高く、美しい多くの写真も好評だった。ただ、もっと多くの人に知らせる努力が必要だと反省もした。写真は、講演の合間に写真展を眺める参加者たち（ハウスペア京都にて）

## ●2010年度総会を開催

上記講演会の終了後、近くの居酒屋で海の生き物を守る会の総会が行われ、2010年度の活動報告と2011年度の活動予定および役員が承認された。同日、3人の入会もあった。

## 4. 海の生き物に関する運動・行事・他の団体の情報

【全国】

### ●映画「祝の島」上映会

「祝の島」こたつ団らんツアー

映画『祝の島』をより日常に近い距離でご覧頂く上映ツアーです。この映画たくさんの方たちに届けたい、という思いから始まりました。上映機材はすべて持ち込み、スタッフが出張して上映する、映画の出前のような新しい試みです。

スケジュールは以下の通り

日時	場所	会場	問合せ先
2月19日(土) 10:00～	福岡県 直方市	直方市公民館	0949-42-0193 (上野)
2月19日(土) 14:00～	東京都 渋谷区	渋谷区消費者センター	03-3402-3244 (ふえみん婦人民主クラブ 片岡)
2月26日(土) 13:30～	大阪府 大阪市	大阪経済大学 C-31号室	06-6475-8885 (あおぞら財団 小平)
2月26日(土)		西南学院大学東キ	092-823-3919
2月27日(日) 両日共 10:00～ 12:30～	福岡県 福岡市	キャンパス内 西南コミュニティ センター・ホール	<a href="mailto:mtamura@seinan-gu.ac.jp">mtamura@seinan-gu.ac.jp</a> (西南学院大学 田村)

15:00～

3月9日(水)～13日(日) 山梨県 山中湖村 [宿ホトリニテ](http://www.hotorinite.com) [hotorinite@gmail.com](mailto:hotorinite@gmail.com)  
([シアターホトリ](http://www.hotorinite.com) 高村) 080-5645-5115

3月12日(土) 北海道 東川町 農村環境改善センター (叢舎 澤田) 0166-82-4416  
14:00～ 上川郡

3月13日(日) 山梨県 長坂コミュニティステーションホール (笠松) 0551-32-2738  
13:00～ 北杜市  
2回上映 ル

### 【北海道】

#### ●映画「ぶんぶん通信」上映会

「ぶんぶん通信 no.1」上映会 in 女満別

日時：2011年2月5日(土曜日) 開場 13:00 / 上映 13:30

場所：北海道網走郡大空町女満別西4条5-4-2 ([地図](#))

【会場】大空町ひまわり温泉 / 網走郡大空町女満別西4条5-4-2

【参加費】700円 【主催】One Step!! ネットワーク

【問合せ先】柿野 / 090-2074-7401 または 0152-48-3270 / [haruhappy07@yahoo.co.jp](mailto:haruhappy07@yahoo.co.jp)

### 【東北】

#### ●映画「ミツバチの羽音と地球の回転」上映会

「ミツバチの羽音と地球の回転」上映会 + トークと公開録音 in 十和田

日時：2011年2月6日(日曜日)

場所：青森県十和田市西三番町2-1 ([地図](#))

【会場】十和田市民文化センター2FAV 総合研修スタジオ / 十和田市西三番町2-1

【プログラム】第1回上映 10:00 / 第2回上映 13:00 / 第3回上映 17:00 ※1, 2回目上映後トークタイム、3回目上映後八戸 BeFM プラッサ・ウーラ公開録音

【参加費】前売 1000円 / 当日 1200円 / 学割あり...主催者にお問い合わせください

【主催】もりもり Aomori 【問合せ先】山内 / 0178-22-3269 / [yam@hi-net.ne.jp](mailto:yam@hi-net.ne.jp)

### 【関東】

## ●スズガモの観察会

冬になると10種類以上のカモを観察することができますが、なかでも沖に浮かぶ20,000羽以上のスズガモは圧巻です。カモを中心に水辺の野鳥を観察しましょう。皆様のご参加をお待ちしています。

日時：2月6日（日）10:00-12:00

場所：葛西海浜公園西なぎさ案内所前集合（葛西渚橋をわたったところ）

持ち物：あれば双眼鏡（望遠鏡を用意します。なくても大丈夫）

参加費：300円

案内：鈴木茂也（三浦半島自然保護の会）

お問い合わせ、お申し込み：認定NPO 法人生態工房 がたモニ担当 03-3331-5004（電話、ファックス）

[info@eco-works.gr.jp](mailto:info@eco-works.gr.jp) <http://www.eco-works.gr.jp/>（こちらからもお申し込みできます）

## ●パネル展

### 「ウェットランドへようこそ～ラムサール条約と日本の湿地」

◎日時：1月6日（木）～2月16日（水）11:00～19:00 ※土日・祝日は休館

◎会場：自然環境情報ひろば 丸の内さえずり館

千代田区有楽町1-12-1 新有楽町ビル1F

東京メトロ有楽町駅 D2出口直結 TEL：03-3283-3536 <http://www.m-nature.info/>

◎内容：ラムサール条約40周年／世界湿地の日（2月2日）の記念イベントとして、ラムネットJが開催するパネル展です。湿地保全やラムサール条約についての解説パネル、各地の湿地の美しい風景や珍しい生物の写真パネルなど、合計約40枚のパネルを一堂に展示します。写真家・村山嘉昭さんの「川ガキ」ミニ写真展もあります。入場は無料です。

## ●「若手研究者・技術者による明日の海洋を拓くパネル討論会」

（社）海洋産業研究会創立40周年記念事業

海洋産業研究会では2010年度に設立40周年を迎え、創立記念事業を実施中です。昨年5月13日には記念講演・公開座談会を経団連会館で開催しました(<http://www.2u.biglobe.ne.jp/~RIOE/> 右肩関係ボタン参照)。

年が改まりましたが、続いて創立記念事業の一環として、わが国の次世代を担う大学院生と実社会の若手海洋人がお互いにプレゼンをしあって意見交換をするパネル討論会を、下



記の要領で、開催することといたしました。 大学院生側からは、現在取り組んでいる研究で実社会の海洋関係者にアピールしたい内容を、若手海洋人（社会人）側からは、我が国海洋開発の将来に向けて取り組んでいる研究開発の内容を発表していただきます。 その上で総合討論を行い、わが国の海洋技術、海洋利用の将来について、その可能性や発展性等について討議をいたします。 終了後には、すべての参加者による交流会を開催し、日本の海洋・沿岸域開発の将来について、引き続いての意見交換の場を予定しています。

日 時：2011年2月14日(月) 13:30-18:30

場 所：JAMSTEC 東京事務所会議室

テーマ：「日本の海洋利用の将来を考える」

—次世代からのメッセージ・次世代へのメッセージ—

発表形式：1件=15分

①当会会員企業およびJAMSTECより3-4件

②大学院生5-6件（東大、海洋大、横浜国大、東海大、日大）

参加費：無料（交流会とも）

聴講者：発表者およびそれ以外の大学の学生・院生、当会会員企業、

海洋関係団体、海洋関係研究機関、関係官庁関係者等、約50-70名

## ●映画「ぶんぶん通信」上映会

「ぶんぶん通信 No.2」上映会+in 佐倉市

日時：2011年2月2日（水曜日）開場 9:45 / 上映 10:10

場所：千葉県佐倉市井野 794-1 ([地図](#))

【会場】志津コミュニティーセンター視聴覚室 / 佐倉市井野 794-1

【参加費】400円 【問合せ先】野坂 / 043-461-7868

【主催】生活クラブ生協千葉下総ブロック 地球とからだにやさしいスローフードの会

## 【中部・北陸】

### ●映画「ミツバチの羽音と地球の回転」上映会

「ミツバチの羽音と地球の回転」上映会+鎌仲監督トーク in 氷見

日時：2011年2月5日（土曜日）開場 12:00 / 上映 12:30

場所：富山県氷見市北大町 7-6 ([地図](#))

【会場】ヒミングアートセンター / 富山県氷見市北大町 7-6

【参加費】1000円 【主催】特定非営利活動法人アート NPO ヒミング

【問合せ先】 高野／090-3886-7669／ [info@himming.jp](mailto:info@himming.jp)

● 「ミツバチの羽音と地球の回転」上映会＋鎌仲監督トーク in 長野市

日時：2011年2月11日（金曜日）

場所：長野県長野市小島804-5 ([地図](#))

【会場】 東部文化ホール

【プログラム】あさの部...受付9:30、上映10:00、12:15 監督トーク／午後の部...受付14:00、  
上映14:30、17:00 ゲスト（鈴木寛さん、箱山正一さん、植野翔さん）&監督トークライ  
ブ／よるの部...受付18:00、上映18:30、20:45 監督トーク

【参加費】 前売1000円／当日1200円／学割あり（主催者にお問い合わせください）

【主催】 わ！ながの／ <http://wanagano.naganoblog.jp/c33795.html>

【問合せ先】 小田切／090-4424-6509／ [minz@mail6.alpha-net.ne.jp](mailto:minz@mail6.alpha-net.ne.jp)

【東海】

● 「伊勢湾流域圏の自然共生型環境管理技術開発」研究成果報告会

日時：2011年3月3日（木） 10:00～17:00（9:30開場）

場所：名古屋大学 I B 電子情報館

参加費： 無料 定員：300名

プログラム：

10:00～11:30 概要説明「戦略的アセスメントによる流域圏の管理」

研究代表者 辻本 哲郎（名古屋大学大学院工学研究科）

11:30～12:00 アドバイザリー委員からの講評

12:00～13:00 休憩

13:00～14:00 ポスター発表

14:00～16:30 研究成果報告

・社会シナリオと施策群：

藤田 光一（国土交通省国土技術政策総合研究所）

・陸域の水・物質輸送モデルの特徴：

高岡 広樹（名古屋大学大学院工学研究科）

・海域の流動・水質シミュレーションモデル：

東 博紀（国立環境研究所アジア自然共生研究グループ）

・生態系サービスと森林の管理・利用：

大場 真 (国立環境研究所アジア自然共生研究グループ)

・農業水利システムと生態系サービス :

高木 強治 (農研機構農村工学研究所施設資源部)

・河道生態系の役割 :

戸田 祐嗣 (名古屋大学大学院工学研究科)

・河川等における生態系サービス :

三輪 準二 (土木研究所水環境研究グループ河川生態チーム)

久岡 夏樹 (土木研究所水環境研究グループ水質チーム)

・河口干潟の多様性と生態系機能 :

野原 精一 (国立環境研究所アジア自然共生研究グループ)

・生活史を考慮した水産資源回復 :

桑原 久実 (水産総合研究センター水産工学研究所)

16:30 ~ 17:00 総合討論

\*詳細は下記 URL をご覧ください

申込方法 事前申し込み (2月28日締め切り)、もしくは当日受付 氏名・所属を下記 E-mail 宛に

問い合わせ先: 名古屋大学「伊勢湾流域圏の自然共生型環境管理技術開発」プロジェクト事務局

〒464-8603 名古屋市千種区不老町 TEL: 052-789-4626 Fax: 052-789-3727

E-mail: [administrator@errp.jp](mailto:administrator@errp.jp) URL: <http://www.errp.jp/>

## 【近畿】

### ●映画「ミツバチの羽音と地球の回転」上映会

「ミツバチの羽音と地球の回転」上映会+鎌仲監督トーク in 龍谷大学

日時: 2011年2月17日(木曜日)

場所: 京都府京都市伏見区深草塚本町67 ([地図](#))

【会場】 龍谷大学深草学舎 / 京都市伏見区深草塚本町67

【参加費】 主催者にお問い合わせください

【主催】 龍谷大学 里山学研究センター 【問合せ先】 ヨシダ / 075-645-2154

### ●映画「ぶんぶん通信」上映会

「ぶんぶん通信 no.1」上映会+祝島ツアー説明会 in 大阪

日時：2011年2月5日(土曜日) 開場 13:30 / 上映 14:00 / 祝島ツアー説明会

場所：大阪市西淀川区野里 2-16-4 (地図)

【会場】漢方の養生舎 / 大阪市西淀川区野里 2-16-4

【参加費】1000円 (びわ茶とお菓子付)

【主催】みつばち茶会 / <http://www.waku-waku.org/888/>

【問合せ先】さかした / 090-5253-2703 / [kazuey113@sakai.zaq.ne.jp](mailto:kazuey113@sakai.zaq.ne.jp)

## ●「奇跡の海を守ろう 上関の生物多様性」 国際シンポジウム



The poster features a central collage of images related to the sea and biodiversity, including a bird in flight, a plant, a bird on a nest, and a bird in the water. The title is written in large blue characters, and the subtitle is in smaller red and black characters. The event details are listed in a structured format below the images.

**奇跡の海を守ろう**  
“カンムリウミスズメと上関(瀬戸内海)の生物多様性”  
国際シンポジウム

日時 2011年4月10日(日) 10:00~17:00  
場所 広島市平和祈念公園内 国際会議場「ヒマワリ」  
趣旨 瀬戸内海で最後に残された生物多様性のホットスポット“かみのせき”(山口県上関町)。ここは国の天然記念物で国際的な保護鳥でもあるカンムリウミスズメが世界で唯一、1年を通じて生息する“奇跡の海”です。ところが上関では原子力発電所建設計画が進行しています。本シンポジウムではカンムリウミスズメと上関の生物多様性保護について海外からのパネラーもお招きし、国際的な視点から考えます。

プログラム(予定)  
第一部 世界的な希少種 カンムリウミスズメについて (10:00~12:00)  
「海鳥の目から海洋環境を見る」 綿貫 豊(北海道大学)  
「瀬戸内海西部における非繁殖期のカンムリウミスズメの生態」 飯田知彦(鳥類・生態系研究者)

第二部 ウミスズメ類の調査と保全対策について (13:00~15:15)  
「アメリカとメキシコにおけるセグロウミスズメの保護と研究(1991-2010)」  
Harry R. Carter (Carter Biological Consulting)  
Darrell L. Whitworth (California Institute of Environmental Studies)

第三部 上関(瀬戸内海)の生物多様性とその保護について (15:30~16:15)  
「周防灘に残されている瀬戸内海の原風景」 加藤 真(京都大学)  
「生物多様性保全の観点から〜3学会の取り組み」 佐藤正典(鹿児島大学)

主催 長島の自然を守る会 協賛 LUSH  
カンパ振込先 郵便振込 01340-8-44688 長島の自然を守る会

お問い合わせ先  
高島 美登里(長島の自然を守る会・代表)  
携帯☎090-8995-8799 Fax 0820(62)0710  
E-mail [midorit@crocus.ocn.ne.jp](mailto:midorit@crocus.ocn.ne.jp)



日時：2011年4月

10日(日)

10:00~17:00

場所：広島市平和祈

念公園内 国際会

議場「ヒマワリ」

プログラム：第1部

カンムリウミスズ

メについて

第2

部 ウミスズメ類

の調査と保全につ

いて

第3

部 上関の生物多

様性の保護につい

て

【九州】

## ●「私たちの暮らしと砂浜の関わり方」(宮崎の海岸シンポジウム)

日時：2011年2月5日(土) 13:30～

場所：宮崎県佐土原町総合文化センター  
研修室

プログラム：

「宮崎海岸で行われている侵食対策」

小澤盛生(国交省宮崎河川国道事務所海岸課)

「自分で見て歩いて調べた宮崎海岸」

林 裕美子(ひむかの砂浜復元ネットワーク)

「海と人のつながりを通し、今の問題点や私たちに出来る取り組み」

柴本聖子(日本の海岸環境を守る会)

・総合討論「自然な砂浜は取り戻せるか？」

主催：住吉海岸を守る会

参加費：500円

定員：先着80名

**「宮崎の海岸シンポジウム」**  
～私達の暮らしと砂浜の関わり方～

**【プログラム】**

- 砂浜の侵食が進む宮崎の海岸について、海岸問題に関わる様々な立場の人の話を聞き、宮崎の海岸の将来を考える
- 「宮崎海岸で行なわれている侵食対策」  
小澤 盛生 (国交省宮崎河川国道事務所海岸課)
- 「自分で見て歩いて調べた宮崎海岸」  
林 裕美子 (ひむかの砂浜復元ネットワーク)
- 「海と人の繋がりを通し、今の問題点や私達に出来る取り組み方」  
柴本 聖子 (日本の海岸環境を守る会)
- 総合討論「自然な砂浜は取り戻せるか？」

**MAP**  
MAP showing the location of the venue (佐土原町総合文化センター) near the Miyazaki River and National Road.

**時間 13:30～** 参加費 500円 (資料費)  
(受付付け13:00～) 定員 先着 80名

**2011年2月5日** (土)

**会場：佐土原町総合文化センター 研修室** ■主催：住吉海岸を守る会  
宮崎県佐土原町下田島 20527-4 お問い合わせ・川崎 雄平 090-8354-2636

※この事業は、みやざき環境パートナーシップ推進事業補助金の助成を受けて実施されます

## 【沖縄】

### ●泡瀬干潟ウミホテル観察会

**泡瀬干潟ウミホテル観察会**  
のご案内 <夜の観察会>

2011年  
2月5日(土) 23:00スタート  
3月5日(土) 23:00スタート

場所：沖縄市ITワークプラザ  
駐車場横広場

- ・参加費 500円 (保険料、資料代込み)
- ・懐中電灯、雨靴、帽子等の必要負担物 (夜の海はかなり寒いです)

問い合わせ/泡瀬干潟を守る連絡会  
TEL: 090-5476-6026 (通話)

<http://www.uh.net/>

日時：2月5日(土)、3月5日(土)、夜  
23時集合

場所：沖縄市泡瀬護岸(沖縄市ITワークプラザの、海に向かって右側の大きい駐車場の横広場)

参加費：保険料・資料代込みで500円

注意：夜中の観察会です。防寒をしっかりと。雨靴必ず。懐中電灯持参。



## 5. 事務局便り：

- この「うみひるも」は「海の生き物を守る会」のメールマガジンです。配信が迷惑と思われる方は事務局までご連絡ください。
- 企画案などその他なんでも本会の活動に関することは、事務局あてにお寄せください。
- このメールマガジンは、毎月1日と16日の2回発行の予定ですが、都合によって遅延や中止もあります。配信を希望する方、送りたい方がありましたらアドレスをお知らせください。また、パソコンを使えない環境の方には印刷体でもお届けします。その場合は、郵送料をご負担していただくことがあります。
- このメールマガジンは転載自由です。海の生き物に関心を持っている方に広く読んでいただくために転送をお願いします。ただし写真を別の目的で使用する場合は事前にご連絡ください。海の生き物や守る運動についての情報など、また各地で行われている海の生物の観察会、研修会、その他の行事に関する情報もお寄せください。「うみひるも」のバックナンバーは、ホームページからダウンロードできます。
- 本会は自然観察会や講演会を各地で実施しています。各地で開催を希望される方、開催をお手伝いできる方は、ご一報ください。また、各地の団体との共催も行います。ごいっしょに講演会や観察会をしたいと思われる団体からも提案をお受けします。
- 本会への寄付をお寄せください。寄付も会費も同じ銀行口座「ゆうちょ銀行 口座番号：10610-6673021 海の生き物を守る会」へお送りください。なお、送金される場合は、送金の内容について事務局にお知らせ下さい。

## 6. 編集後記

1月30日に京都で開催した講演会&写真展は、無事に終わりました。講演を引き受けていただいた高島さん、佐藤さん、安部さんには、お礼申し上げます。いよいよ立春が間近になりました。海では干潮が日に日に大きくなりつつあります。海に出かけるにはまだ寒いですが、海の中では生きものたちの活動がもう始まっていることでしょう。私たちも負けずに活動を始めましょう。上関、諫早、辺野古の海を守るために。 (宏)

**海の生き物を守るためになにかしたい！というあなたに！**

## 会員募集中です！

会員は本会の趣旨に賛同できる個人・団体とします。会費は個人 2,000 円/年、団体 20,000 円/年。匿名による参加も可能です。会員は、当会の名前を使って各地で海の生物とその環境を保護・保全する活動を行うことができ、そのための助成金申請をすることができます。活動は当会の発行するメールマガジンなどを通して広く通知されます。入会希望の方は、事務局

[hiromuk@mtf.biglobe.ne.jp](mailto:hiromuk@mtf.biglobe.ne.jp) (向井) まで、氏名、住所、メールアドレスをお知らせください。



メールマガジン『うみひろも』第73号

2011年2月2日発行

発行&編集人「海の生き物を守る会」

代表 向井 宏

〒606-8244 京都市左京区北白川東平井町 23-1

グリーンヒル北白川 23

TEL&FAX:075-703-7205; 090-8563-1501 メールアドレス：[hiromuk@mtf.biglobe.ne.jp](mailto:hiromuk@mtf.biglobe.ne.jp)

ホームページ URL：<http://www7b.biglobe.ne.jp/~hiromuk/index.html>

銀行口座：ゆうちょ銀行 口座番号：10610-6673021 海の生き物を守る会